

自然教育園の 1月に見ごろの植物



ユキワリイチゲ

武



ヤマコウバシ(葉)

武



ヒメガマ(実)

水



フクジュソウ(つぼみ)

武 路



シモバシラ(氷の花)

武 路



ハンノキ

水



カラスウリ(実)

武 水 路



ムクノキ(樹形)

館



カラスザンショウ(実)

路



マンリョウ(実)

武 路 森



コブシの花
(3月中旬ころ)

コブシ(冬芽)

武 水 鳥



ヤブツバキ

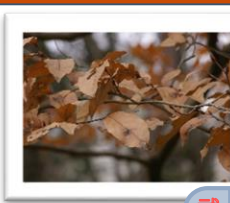
路 森 鳥 館

いきもの解説



ユキワリイチゲ
 <1月下旬～3月中旬>
 小さな薄紫色の花が咲いています。葉は、野菜のミツバ（セリ科）によく似ています。名前の「一華（いちげ）」はイチリンソウ（別名イチゲソウ）の仲間であることによります。

武



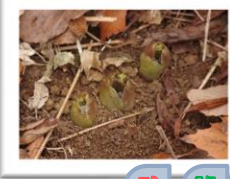
ヤマコウバシ(葉)
 <12月上旬～2月下旬>
 葉は、冬の間、枯れた状態で枝についたままで落ちず、とても目立ちます。枯れ葉は、春に新芽が出たときに入れ替わります。山香（やまこぼし）の名前は枝や葉を折るとショウブに似た臭気があることによります。

武



ヒメガマ(実)
 <12月下旬～2月中旬>
 ソーセージのような穂が崩れ、綿毛のついたたくさんの果実が姿をみせています。強い風が吹くと、綿毛と果実が飛びだします。

水



フクジュソウ(つぼみ)
 <1月下旬～3月上旬>
 福寿草（ふくじゅそう）の名前は、旧暦の正月ごろに咲くため、新年を祝うめでたい花としてつけられました。春にだけ地上に顔を出す春植物のひとつで、地上部はやがて枯れてしまいます。

武 路



ハンノキ
 <1月中旬～2月下旬>
 枝先に垂れ下がるのが「雄花」、枝の途中にある赤いマッチ棒のようなものが「雌花」です。

水



前年の実



シモバシラ(氷の花)
 <1月上旬～2月下旬>
 寒い日の朝、シモバシラの根元に「氷の花」を見ることができるとは思いません。これは茎の割れ目にできる氷柱で、「氷点下」「雨・雪がふらない」「風が弱い」などの条件が合う場合に見られます。

武 路



カラスウリ(実)
 <10月下旬～1月下旬>
 卵形の赤い実が目立ちます。この実の果肉や果汁は、民間薬としてひび割れや霜焼けに使われます。漢方では、根を利尿などに、タネを鎮痛、咳止め、消炎剤などに利用します。

武 水 路



ムクノキ(樹形)
 <12月下旬～3月下旬>
 高さ25m、幹の周囲5mのムクノキの大木。下から見上げると、大きく枝を広げている様子がよくわかります。

館



マンリョウ(実)
 <11月中旬～3月中旬>
 庭園の植栽や盆栽などに利用され、日本の古い園芸植物として知られます。

武 路 森



カラスザンショウ(実)
 <12月上旬～1月下旬>
 実が園路に落ちています。名前の由来は、カラスがこの実を食べるためと言われています。園では、カラスではなく、メジロやホンセイインコがよく実を食べにやってきます。

路

コブシの花
 (3月中旬ころ)



コブシ(冬芽)
 <秋～3月上旬>
 葉を落とした木に、ふさふさの大きな芽がついています。これは花芽（はなめ）で、春になると白く綺麗な花を咲かせます。

武 水 鳥

探してみよう。
 見つかるかな？

カマキリの卵のう



オオカマキリ
 カマキリの仲間は卵で冬を越します。オオカマキリの卵のうは、マシュマロのような形が特徴。比較的背の高い草によく見られます。



ハラビロカマキリ
 色が濃くてツヤがあるのが特徴。木の幹や枝などによく見られます。



ヤブツバキ
 <11月下旬～4月上旬>
 寒い冬でも、花を咲かせます。メジロなどが花を訪れ、花粉を運びます。花は丸ごと散ります。

路 森 鳥 館



ココマキリ
 薄茶色で細長い形。杭や壁などの人工物によく見られます。